

学習活動⑤ 総合的な学習の時間と関連した道徳授業

島根県教育委員会作成の『しまねの道徳』（図1）は、「郷土への親しみや愛情」について多様に感じ、考えを深めることをねらいとして、県内の優れた教育資源を題材とした島根県版の道徳教育郷土資料である。

本校では各学年の実態や総合的な学習の時間の目標と照らし合わせ、道徳年間指導計画に本資料を使用した学習を組み込んだ。

なお、今年度は、しまね教育魅力化特命官の岩本悠氏に、講演いただいたため、同資料内「島で学ぶ」を用いた道徳の授業は、講演会に参加する2・3年生で行った。



図1 しまねの道徳

(1) 2年生「島で学ぶ～隠岐島前高校の生徒の話～（海士町）」

資料「島で学ぶ島で学ぶ～隠岐島前高校の生徒の話～（海士町）」を使用した。この資料は、島根県立隠岐島前高等学校ヒトツナギ部の取組を紹介する話である。高校での活動や島の人との関わりを通して、自己を見つめながら成長する生徒の姿を知ること、長所も短所も含めてそれが自分の個性だということや、将来こうありたいと願いをもつことの素晴らしさについて考えることのできる資料である。

授業の導入で、島根県隠岐郡海士町役場が作成している「ないものはない」ポスターを紹介した。生徒は「見たことがある」「隠岐に行ったことがある」「今、注目されている所だ」などの発言が多かった。その後、簡単に隠岐や隠岐島前高等学校の説明をした。

次に、全体で資料を読み、話の内容を共有した後、資料に登場する世奈さんと啓佑さんの2人の気持ちについて考え、中心発問「2人の話から、個性を伸ばすために大切なことは何だろうか」を提示した。生徒からは、「本気でやること、それを一緒にやってくれる仲間がいること」「苦手なことに対しても勇気を出して行動することが大切」「自分の長所を活かして自分の意志で行動すること」などの意見が出た。「あなたはそんな行動ができますか」という問いかけに対して、生徒は「今は自信がないけど、できる人になりたい」「やり遂げた後に自分が成長できると思うから、隠岐島前高等学校のような活動してみたい」という前向きな意見が多かった。

授業の終末では、海士テレビの「ヒトツナギ」を視聴した。動画で実際に行われた活動を見たり、感想を聞いたりすることで、生徒にとってはより具体的にイメージができ、印象に残ったと考える。また、活動が成功するまでに失敗をしたり、繰り返し検討したりする場面や、成功した時の自信にあふれた笑顔や別れの涙の場面を見ることで、これから行う自分たちの総合的な学習の時間の活動も、そのような活動にしたいと感じた生徒が多かった。

道徳「島で学ぶ」の授業のふりかえりより

○自分のよさを伸ばすのは自分次第だと改めて感じることができました。また、よさを見つけるためにも、自信をもってたくさんの努力をしなきゃいけないと思いました。私にはまだそんなきっかけをつくることのできないけれど、これから自分を見直し、自分を変

えられるといいです。

○人とのつながりをこれから大切にしていきたいです。人とのつながりがあると、自分の長所、短所を知り、良い方向へもっていけると思います。これからたくさんの人と関わり、自分を見つめなおし、より良い自分をめざしたいと思います。

○島育ちの生徒と、都会育ちの生徒と一緒に活動することはいいなと思いました。それぞれによさがあると思うし、違った環境を知ることができるからこそ、今の現状がいいものと感じることができたり、無いものを取り入れようと努力できたりすると思います。この隠岐島前高等学校のような地元を大切に活動した活動を総合の時間に自分もやりたいと思います。

【指導上の留意点や地域と連携する際の留意点】

- ・内容項目 C- (16) 「郷土愛」との関連で、郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度の理解を深める。
- ・海士町や隠岐島前高等学校の取組は、様々なメディアで紹介されているため、ポスターや本、動画などを効果的に使う。
- ・前時には講演会の演者である岩本悠氏が、隠岐島前高等学校の魅力化プロジェクトの一員であることを伝え、講演会に興味をもてるようにする。

(2) 3年生「島で学ぶ～隠岐島前高校の生徒の話～（海士町）」

授業の導入として、個人でそれぞれの「長所・短所」について考えるチャートを作成した(図2)。資料を読む前に「個性」とは何かについて考える機会をもつためにこの活動を行った。項目は『県版 中学生生活と進路』のチャートを参考に設定した。全ての項目が長所ととれる記述になっているが、「あてはまるものがほとんどない」という生徒もいれば、

○『自分を振り返ってみよう。あてあまるものにチェックを入れよう。』

<input type="checkbox"/> 落ち着いている。	<input type="checkbox"/> アイディアをよく出す。
<input type="checkbox"/> すぐに人と仲良くなる。	<input type="checkbox"/> 丁寧に作業する。
<input type="checkbox"/> 面倒見がよい。	<input type="checkbox"/> 新しいことに挑戦する。
<input type="checkbox"/> 失敗してもよくよしない。	<input type="checkbox"/> 困っている人を手伝う。
<input type="checkbox"/> 人のよい面を見付ける。	<input type="checkbox"/> 粘り強い。
<input type="checkbox"/> ルールは必ず守る。	<input type="checkbox"/> ウソをつかない。
<input type="checkbox"/> 人の話をよく聞く。	<input type="checkbox"/> あいさつをきちんとする。
<input type="checkbox"/> 行動にうつすのが早い。	<input type="checkbox"/> 協力して物事をすすめる。

図2 道徳ワークシートより

「ほとんど全てにチェックがついた」という生徒もいた。長所の有無が問題なのではなく、どのように自分を見ているかが大切だという話をしてから資料の範読に入った。

全体で資料を読み、話の内容を共有した。その後、資料に登場する世奈さんと啓佑さんの2人の気持ちについて考え、中心発問「2人の話から、個性を伸ばすために大切なことは何だろうか」を提示した。生徒からは、「自分から新しい取り組みをしたり、自分の特徴を生かすことのできる環境を見付けるためにも自分から発信したりすることが大切」「自分の良いところも悪いところもきちんと理解することが大切」「自分の個性を生かすことも大切だけど、他者の個性を否定しないで受け入れることも大切」などの意見が出た。

授業の終末では、今後行われる岩本悠氏の講演会や、今年度の総合的な学習の時間で目指すことなどを説明した。また、自分の得意なことを生かして、社会に参画していくことを目標としていくという観点から、自分の得意なことや、熱心に頑張ってきたことの振り返りを行った。以下にふりかえりの項目を挙げる。

○これまで自分が一番力をそそいだ教科は何だろう。具体的にどんなことをしましたか。

- これまで自分が一番力をそそいだ行事は何だろう。具体的にどんなことをしましたか。
- これまで部活動や習い事・趣味で、自分が一番力をそそいだことは何だろう。
- これまで体験学習（総合・遠足・修学旅行など）で自分が一番力をそそいだことは何だろう。具体的にどんなことをしましたか。

それぞれの項目について、自分の良いところを探し、それを生かすと今後どんなことができそうかを考える終末活動とした。今は中学生であるが、将来大人になったときに、自分の得意なことや好きなことを生かして社会の一員として生活できると、より充実感を得られるだろうとの考えをもつ生徒もいた。これから行う自分たちの総合的な学習の時間の活動も、そのような活動にしたいと感じた生徒が多かった。

道徳「島で学ぶ」の授業のふりかえりより

- 自分のやりたいことを行動にうつしていくのは大切なことなのだなと思いました。そして、それをするには、自分と向き合っ、自分を知り、自分を認めてあげて自信をつけなければならないと考えました。自分はず、自分を知っていくことから始めていこうと思います。
- 去年「上級学校調べ」で隠岐島前高等学校を調べました。調べていくと海士町出身の方も、留学生の方も本当にこの高校を愛しているなど伝わってきました。すごく魅力あふれるところで、人がわかる・自分がわかるってすごいと思いました。私もポジティブにがんばりたいと思いました。
- 苦手なことでもやろうという気持ちさえあれば、変えられるということがわかりました。本当に「自分次第」だと思いました。個性や長所というと自信がもてなくて他の人から見られている印象と違ったらどうしようと考えてしまいます。でも個性や長所は自分で伸ばしていくことができると知りました。自信をもっていいものなんだと思いました。私も自分の個性に自信がもてるようになりたいと思いました。
- 自分を変えるということは結構難しいことだけど、人との関わりで、人に影響されて変わることができるのはすごいことだと思いました。だから人間関係ってとても大事なことなんだとわかりました。
- やりたいと思ったことは挑戦してみることが大切なんだなと思いました。活動する場所・環境を変えると新しく自分のよさがわかったりするのかなとも思ったので、将来の進路選択の視野が広がりました。
- 自分の興味をもったことをまず行動してみて知らないといけないなと思いました。ただなんとなく、活動を進めたり、進学したりするのではなく、自分の個性を知り、目標をもって決めていきたいです。苦手なことにもチャレンジし、新しい自分を見つけていきたいです。

【指導上の留意点や地域と連携する際の留意点】

- ・内容項目 C- (16)「郷土愛」との関連で、郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度の理解を深める。
- ・海士町や隠岐島前高等学校の取組は、様々なメディアで紹介されているため、ポスターや本、動画などを効果的に使う。

- ・（講演会の）前時に講演会の演者である岩本悠氏が、隠岐島前高等学校の魅力化プロジェクトの一員であることを伝え、講演会に興味をもてるようにする。
- ・現在在学中の本校卒業生のインタビューも、題材を生徒がより身近に感じられるために効果的である。
- ・自分自身の個性・適性や将来について考えることができる教材である。進路学習との連携も有効である。

(3) 2年生「離島医療の仕事はおもしろいで」

この資料は、隠岐島前病院の白石吉彦院長の生き方を紹介したものである。医者という職業によって自己実現すると同時に、島に住む人々の社会生活の発展・向上に貢献している白石さんの生き方から、自己を生かして社会に貢献することの大切さを学ぶことができる資料である。

授業は、職場体験前に行った。授業の導入では「人は何のために働くのか」と質問をした。生徒からは「お金を稼ぐため」「生きていくため」「やりがいのある人生を送るため」など自分のための意見が多く出た。少数ではあったが「誰かの役に立ちたい」「病気の人を助けたい」など他人や社会のために働くという意見もあった。

全体で資料を読み、話の内容を共有した。その後、白石さんにとっての「おもしろい仕事とは何か」を確認し、中心発問「仕事がおもしろいのおもしろくないのでは、どんなちがいがでてくるのだろうか」を提示した。生徒からは「仕事がおもしろかったら頑張れる」「一緒にやろうと同じ志の人を誘い、さらによい仕事ができる」「仕事で関わるすべての人たちにもおもしろさが伝わり、みんなが温かい気持ちになる」などの意見が出た。「白石さんにとって仕事とは何だろう」という問いかけに対して、生徒は「自分のためでもあるけど、人のためになること」「まわりからありがたと言われること」などの意見が出て、働くことが社会のためになることにつながると考えている生徒が多かった。

授業の終末では、MBC ふるさとかごしまの「地域医療に光を当てたい！～熱く若き医師たちの挑戦～」を視聴した。本校の生徒は医療関係の仕事を目指す生徒が多いため、地方での医師不足解消のために導入された医学部の地域枠で学ぶ医学生たちの様子を見たり、思いを聞いたりすることで、地域の医療現場をより具体的にイメージでき、印象に残ったと考える。また、勤労の尊さや意義、自己を生かして社会貢献することの大切さなどについて学ぶことができた生徒が多かった。

道徳「離島医療の仕事はおもしろいで」の授業のふりかえりより

- 今回は仕事についての話でしたが、ただ仕事を行うのではなく「仕事の楽しさ」や「仕事への意欲」が大切なことが良く分かりました。ぼくは、これからの普段の学校生活からも、この仕事のおもしろさが利用できるのではないかと思います。仕事に対する思いが大切だということが分かりました。
- 仕事は大変なことばかりだと思っていたけれど、努力をすれば、仕事はおもしろくできるんだと思いました。私の職場体験先は人と関わる場所でした。やっぱり私も白石さんと同じで、お客さんが笑顔になってくれると嬉しかったです。一方的に笑顔を送るのではなく、心から喜んでもらえるとう頑張ろうという気持ちになりました。

【指導上の留意点や地域と連携する際の留意点】

- ・内容項目 A- (4) 「希望と勇気、克己と強い意志」、B- (6) 「思いやり、感謝」、C- (16) 「郷土愛」との関連で、それぞれに関する理解を深める。
- ・職場体験前に行うことで、職場体験を通して働くことについて考えることができるようにする。

(4) 3年生「響け 江川太鼓（川本町）」

島根県で昭和 47 年に大規模な集中豪雨が発生した。未曾有の大水害は人々の生活に甚大な被害をもたらしただけでなく、まちから活気が失われ、その後の復興にも大きく影響が及んだ。意気消沈したまちを、何とか元気付けるにはと考えた多々良操さん・竹内幸夫さんらの取組を紹介した資料が「響け 江川太鼓」である。江の川の水運で栄えた川本町ならではの舟山車に太鼓を載せ街中を練り歩き、太鼓でまちに活気を取り戻そうとした経緯を紹介する資料である。この資料での学習を通して、自らの課題意識が地域社会のムーブメントになること、そして何事も順風満帆には進むことはないが、確たる意志をもって仲間を増やして続けていくと道が拓けてくることを生徒に感じてもらいたいと考えた。

3年生の総合的な学習の時間は、身近な地域に対する自らの課題意識から社会参画を目指して活動を進める。災害後、まちの復興とともにまちにくらす人々の心の復興を志した多々良さんらの姿を追う本資料での学習は、生徒たちが「住みたいまちづくり」にどのように自ら関わるができるかということと照らし合わせて考える機会にもなる。

昭和 47 年の豪雨災害「47 豪雨」について知る生徒は少ない。そこで資料を読む前に、街中にある「47 豪雨」時の水位を示す表示や水没した出雲市・松江市の写真を提示した。川本町から遠く離れた出雲市・松江市でも大きな被害を被ったことがわかる写真は生徒にとって衝撃的であったようだ。また当時の松江駅周辺の写真と現在の様子とを比べ、まちが大きくなっていることにも気付いた。

被災の様子とその後の復興に向けてまちや人が動いていく様子について資料を読みながら共有した。近年災害は報道によって生徒も情報を得ることが多くあり、復興にいかにか時間や労力がかかるかは想像しやすい。「そのような状況下で多々良さんと竹内さんはどのような思いをもって活動を始めたと思うか」という発問を提示した。また、「周囲の反対や賛同をなかなか得られない中で、多々良さんや竹内さんの活動を続ける思いを支えたものは何だったか」と問いかけた。生徒からは「まちのために」「まちにくらす人々のために」という自分のできることで他者に貢献するという旨の意見が多く出た。

中心発問の「江川太鼓がこれからも長く続くには、何が必要だろう」について、総合的な学習の時間で課題に感じたことについて触れる生徒も多かった。長く続いていくためには、伝統の担い手が必要になると考えた生徒は「川本町を住みやすくして活気あふれるところにする」と答えた。また「やると決めた強い思い」という熱意ある人の集まりでなければ、物事を続けていくことは困難であると考えた生徒もいた。「自分ができることは何かを自分で見付ける。できることとやりたいことを結び付ける。」というまさに総合的な学習の時間の課題設定と同じように考えた生徒もいた。郷土の良さや課題を出し合い、自分達が現在もしくは将来関わられることを考えることで、「ふるさとの明日を創る」ことにつながっていく様子が見られた。

授業の終末に、江川太鼓の公演を視聴した。地域の夜まつりでの公演であったが、力強い演奏と、祭りや太鼓の演奏を楽しんでいる地域住民の姿が見られる映像で、復興したまち、伝統が次代に受け継がれていることが伝わってきた。

道徳「響け 江川太鼓」の授業のふりかえりより

- まずは島根のことをもっと知らなければならないと感じました。また、島根のよさを見つけ、それを発信することがわたし達にもできることだと思いました。将来島根で働くことができるかどうか今はまだわかりませんが、これからの自分の生き方が地元の将来や文化の存続につながることを考えることができました。
- 地元の伝統的な文化を体験することや身近な自然を保護するなど自分達がかかわれそうなことがあることに気付きました。高齢化や次の世代の文化の担い手不足など課題がたくさんありますが、自分達のできることを見付けて実行していくことが地域の活性化にもなるんじゃないかと思いました。
- 島根には特産物や豊かな自然、優しい人が多いなどたくさんいいところがあると思います。それと同じかそれ以上に課題がたくさんあることも知っています。島根のことは自分達で解決できるのが望ましいです。課題は課題として多くの人に知ってもらうことと、今あるいいところを使って課題解決ができるといいです。

【指導上の留意点や地域と連携する際の留意点】

- ・内容項目 C-16「郷土愛」との関連で、郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度の理解を深める。
- ・内容項目 C-16「伝統と文化の尊重」との関連で、日本独自の伝統や文化を愛する態度の理解を深める。
- ・島根県全体が抱える課題である過疎化に着目し、伝統の担い手としての自分に気付かせることも大切である。
- ・「47 豪雨」について知る教員・生徒も少ない。町中にある当時の水位を示す表示や写真資料等を使い、災害状況の理解の一助とする。
- ・音楽科の和太鼓の単元との連携も考えられる。